

自然の恵みと地域の活力が調和する やさしさとふれあいのまち

自然の恵みと歴史文化、活力ある産業にはぐくまれて

諏訪市は、長野県のほぼ中央に位置し、諏訪湖、霧ヶ峰高原、豊富に湧き出る上諏訪温泉など自然資源に恵まれたまちです。

市内には、日本最古の神社の一つとされる諏訪大社上社があり、古来より崇敬を集めてきました。



全国に約2万5000社ある諏訪神社の総本社「諏訪大社上社」

江戸時代には高島藩三万石の城下町として、また、明治時代には世界的な製糸業の中心地として栄えました。戦後は、時計に代表される精密機械工業が発達し「東洋のスイス」と呼ばれ、現在も高度な精密加工技術を有する企業の集積地として優れたものづくり技術を世界に発信し続けています。

さらに、諏訪の風土を背景に古くから豊かな文化が花開き、世界的な舞踊家のニムラ・エイイチ氏、歌人の島木赤彦氏、岩波書店創始者の岩波茂雄氏、元中央気象台長でお天気博士として名高い藤原咲平氏、小説家の平林たい子氏、新田次郎氏、考古学者の藤森栄一氏など、多くの文化人を輩出しています。日本におけるグライダーやスピードスケート発祥の地としても知られています。

夏の諏訪湖は毎日花火

毎年8月15日に開催する諏訪湖祭湖上花火大会は、64回を数え、諏訪湖畔を埋め尽くす多くのお客さまに会場いただき、インターネットなどのメディアにおいて、数ある全国の花火大会の中でも上位に位置付けられるまでになっております。この花火大会は、昭和24年、戦後の混乱の中で、市民が希望を持ち1日も早く立ち直ることを願って始まり、その原点に立ち返り、観覧いただく皆さんの希望と元気の源となるよう、プログラムの充実を図っております。

また、9月の第一土曜日に開催する全国新作花火競技大会は、30回を数え、全国より選び抜かれた煙火師により、自由な



毎年8月15日に開催される「諏訪湖祭湖上花火大会」

脈々と受け継がれる 諏訪人のものづくり気質

製糸業から精密機械工業、精密加工技術とその姿を変えながらも、諏訪人のものづくり気質は脈々と受け継がれてきました。本市では、文部科学省の教育課程特例指定を受け、市内の小・中学校の全学年で「相手意識に立つものづくり科」を正規の教科として取り入れています。この教科は、常に使い手の立場に立つって考え、要望に応えるものづくりの学習を通して、技術の習得ばかりでなく思いやりの心を育て、諏訪のものづくり精神を理解し、郷土を愛する気持ちははぐくむことを目標としています。毎年、児童・生徒が授業で製作した作品(商品)を販売する機会「チャレンジショップ」を開催し、販売体験を通して、感動や感謝、相手の立場に立つことの大切さを学び、ものづくり学習のさらなるレベルアップに役立てています。

平成24年10月、本市で技能五輪全国大会が開催されました。ものづくりの次世代を担う若者が、県代表のプライドを掛け技術を競う姿は、数々の感動のドラマを生み

ました。会場へ見学に訪れた市内の小学生が競技を真剣に見入る姿に、諏訪のものづくりの未来を見ることができました。

住み慣れた地域で、生涯、安心して暮らすために

誰もが住み慣れた地域で、生涯、安心して暮らせるまちをつくるためには、市民の健康増進が第一です。その拠点として、平成17年から「すわっこランド」を運営しています。25mの室内プール、50mの屋外プール、トレーニングジム、上諏訪温泉を引湯した浴室、飲食コーナー、マレットゴルフ場を併設し、個人にあつたさまざまなトレーニングメニューやレッスンを提供してします。また、諏訪市健康づくり計画「健康すわプラン21」に沿った各種講座や教室なども開催しています。

そして、市民が病気になったとき、頼りにできる地域医療体制の整備も重要です。本市では、諏訪市医師会と諏訪赤十字病院のご尽力により、いわゆる「病診連携」が推進され、初期の診療は地域の医院や診療所で行い、高度で専門域の医療は病院で行われています。



諏訪市長 山田勝文

〔特産品〕清酒、味噌、わかさぎ、かりん、りんご

〔将来都市像〕自然の恵みと地域の活力が調和する やさしさとふれあいのまち諏訪

〔まちの特徴〕豊かな自然資源と歴史、文化遺産に恵まれるとともに、優れたものづくり技術を誇るまち

プロフィール

- ◆ 面積 109.91 km²
- ◆ 人口 5万1675人
- ◆ 世帯数 2万1308世帯

結びに

東日本大震災を機に、これまで信じられてきたさまざまな仕組み

本年度、地域における医療の役割について市民の理解を深めることを目的に「地域医療セミナー」を開催しました。信頼できる地域医療の環境を将来にわたり健全に維持していく方策を、市民とともに考えているところです。

や価値の見直しを迫られ、わが国は多くの難題を抱える大転換期にあります。私たちは改めて歴史に学び、今を見つめ、未来に希望を掲げなくてはなりません。本市は、「第五次総合計画」に掲げた将来像「自然の恵みと地域の活力が調和する やさしさとふれあいのまち諏訪」をしっかりと見据えて、計画に沿った着実な歩みを進めてまいります。



※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

ぬくもりと喜びのあふれる まちを目指して

「映画のまち」調布

調布市は、東京都のほぼ中央に位置し、新宿駅から特急で15分と、都心に近接し利便性が高いという立地条件を有し、武蔵野の面影を残す豊かな自然と調和したベッドタウンとして発展してまいりました。

市の南部を流れる多摩川は、市民の憩いの場であるとともに、市内外から毎回数30万人が来場する「調布市花火大会」の会場となります。

古くから映画産業とかわりが深い調布市は、昭和30年代には「東洋のハリウッド」と称され、現在でも市内に多くの映画関連企業が集積しています。多摩川付近には、「映画のまち調布」を象徴する2つの撮影所(角川大映撮影所、日活調布撮影所)があります。

市では世代に合わせた映画関連

イベントを積極的に展開しており、子どもと大人が一緒に楽しむことができる日本最大の子ども映画祭である「キンダー・フィルム・フェスティバル」、映画の楽しさに触れ、将来の人材育成も兼ねた「調布ジュニア映画塾(中学生対象)」と「高校生フィルムコンテスト」、市民によって企画・運営される「調布映画祭」などが好評です。

北部には、市内有数の観光スポットである古刹・深大寺(東京では浅草寺に次ぎ2番目に古い)に加え、バラ園が見事な都立神代植物公園があります。

東部には、武者小路実篤が晩年を過ごした邸宅を中心とした武者小路実篤記念館、建築家・安藤忠雄氏設計の「調布市せんがわ劇場」をはじめ、氏の手による建築が建ち並ぶ通称「安藤ストリート」があ

り、桐朋学園や白百合女子大学とともに、まちに芸術・文化の彩りを添えています。

西部には、離島便が発着する調布飛行場があり、周辺にはJリーグFC東京のホームスタジアムである「味の素スタジアム」を中心にスポーツゾーンが広がっています。

京王線、地下化完了

市内を東西に走る京王線は、開通から百年にわたって市民の暮らしを支え、まちの発展の原動力となってきました。その京王線の地下化切り替え工事が、平成24年8月19日に完了しました。

「京王線調布駅付近連続立体交差事業」は、市の中心部約3.7kmの区間を地下化し、18カ所の踏切道を解消、8カ所の都市計画道路を立体化する事業で、当初の計画か



市内一番の観光名所、深大寺

ら43年、工事着手から8年という長い時間を要しました。今後は、まちの顔となる調布・布田・国領各駅の駅前広場の整備を推進するとともに、鉄道敷地を活用した、ゆとりある空間の確保に努めながら、求心力を有する快適で魅力あふれる中心市街地を形成し、まち全体の活力と市民生活の質の向上につながるまちづくりに取り組んでまいります。

ぬくもりのあるまち調布

調布市は、この10年の間に2度

もNHKのドラマ(大河ドラマ『新選組!』、連続テレビ小説『ゲゲゲの女房』)で、ゆかりの人物が取り上げられる幸運に恵まれました。

平成22年3月末から半年間放送された『ゲゲゲの女房』は、市内に50年以上お住まいで、名誉市民である漫画家水木しげる先生の奥さま・武良布枝さんの同名の著書が原案です。舞台の一つとなった深大寺には多くの観光客が詰め掛け、名物の深大寺そば各店に連日長蛇の列ができるなど大きな反響があり、現在でも周辺のにぎわいが続いています。

原案者の武良さんは、調布を「ぬくもりのあるまち」と評してください



スポーツ祭東京2013のメイン会場となる「味の素スタジアム」

いきました。ドラマを通じて、ともにすると希薄になりがちな現代の間関係の基礎とした社会の在り方について、考える機会を得て、人と人との温かなつながりを大切にすぬくもりあふれるまちづくりの必要性を痛感しました。

国体を契機にしたまちづくり

本年9月28日から10月14日まで、味の素スタジアムをメイン会場に「スポーツ祭東京2013」(第68回国民体育大会、第13回全国障害者スポーツ大会)が開催されます。現在、本番に向けた準備に市を挙げて取り組んでおり、平成24年末には気運醸成の一環として、かつて日活で活躍された吉永小百合さん、石原裕次郎さんら64人の俳優、監督の手形をスタジアム最寄りの京王線飛田給駅に掲出しました。こうした調布ならではのアイデアで、国体を大いに盛り上げます。

味の素スタジアム周辺では、東京都の「武蔵野の森総合スポーツ施設基本計画」に基づいた整備が進められています。既にスタジアム内は、国際規格IAAFクラス2を取得した公認第1種陸上競技場として、全国規模かつ国際レベルの

大会開催が可能となりました。

国体終了後には、1万人規模の観客席を持ち、国際的な大規模スポーツ大会およびイベント興行の利用が可能なメインアリーナ、柔道や剣道など、武道の場が提供できるサブアリーナ、50m・8コースからなる国内公認屋内競泳プールが相次いで整備され、都内最大規模のスポーツ拠点が生まれる予定です。関係自治体と連携し、夢のある空間づくりを目指します。

プロフィール

- ◆ 面積 21・53 km²
- ◆ 人口 22万3235人
- ◆ 世帯数 11万8世帯

〔将来都市像〕みんなが笑顔でつながる・ぬくもりと輝きのまち調布

〔まちの特徴〕武蔵野の面影を残す水と緑に恵まれた豊かな自然と、鉄道と道路整備により充実した都市の利便性が調和するまち

〔特産品〕深大寺そば、調布ビール、



調布市長 長友貴樹



深大寺ビール、小松菜、トマト、枝豆
〔観光〕深大寺、布多天神社、国領神社、近藤勇生家跡、映画俳優の碑、都立神代植物公園、味の素スタジアム、調布飛行場、武者小路実篤記念館
〔イベント〕調布市花火大会、調布よさこい、キンダー・フィルム・フェスティバル、調布映画祭、神代植物公園パラフェスタ(春秋開催)

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

わが

懐かしい思い出がよみがえる 回想法のまち 北名古屋

はじめに

北名古屋市は、人口約8万2000人、愛知県の北西部に位置し、その名が表す通り、名古屋市の北側に隣接しています。温暖な気候と濃尾平野の肥沃な土壌に恵まれた地域であり、面積18・37km²の市域は、上から見るとハートの形をしています。

本市は、平成の市町村合併の流れを受けて、平成18年3月に師勝町、西春町の2町による新設合併によってその歩みを始めました。市内には合瀬川、五条川などの河川が流れ、うるおいのある豊かな田園風景が広がるとともに、名古屋市の都心部から10km圏内の恵まれた立地ということもあり、交通の利便性の高い住宅都市として発展を続けています。

地域ケアに全国で初めて「回想法」を導入

本市は、高齢者が生き生きと生活するためのまちづくりとして、「回想法」を全国で初めて地域ケアの中に取り入れました。回想法とは、昔懐かしい生活用品などを用いて、かつて自分が体験したことを語り合ったり、過去のことを思いを巡らしたりすることによって、脳を活性化させ、生き生きとした自分を取り戻そうとする心理療法です。北名古屋市では、回想法を「思い出ふれあい事業」として展開しています。

その実践として、北名古屋市歴史民俗資料館と明治時代の旧家であり、国の登録有形文化財でもある旧加藤家住宅や隣接する回想法センターを活用しています。歴史

の情報や成果を全国へ発信しています。

現在の社会は、時の流れが速く、家族や周囲の人も忙しい中で、高齢者の昔話などをゆっくり聞く暇もなく、その機会もめったにないのが実情ではないでしょうか。そのような中であって、自分を受け止めてくれる良き聞き手が現れ、



国の登録有形文化財である「旧加藤家住宅」



昭和30年代を再現した「思い出の我が家」コーナー

楽しく語ることができ「機会」と「場」があれば、高齢者にとってどんなに日常生活が生き生きしたものであることでしょうか。回想法を実施する意義はまさにそこにあります。

回想法は、個人内面への効果(自我の形成、自尊感情の高まりなど)と対外世界への効果(対人関係の進展、生活の活性化など)があるといわれています。また、表情が豊かになるなど、情緒の安定にも効果があるといわれ、高齢者のQOL(生活の質)を高めることが期

待されており、本市では地域回想法実践の先進地としてこれからも推進してまいります。

アートを活かしたまちと人との交流

まちを歩くと、ブロンズなどのでつくられたモニュメントに出合えます。北名古屋市では、アートを活かしたまちづくりをキーワードにして、個性豊かな街並みづくりを進め、街路にモニュメントを設置してきました。本市に東西2つのキャンパスを構える名古屋芸術大学の西キャンパス北側道路の一部、約1・5kmを「アートエリアロード」と名付け、同大学の教員や学生の手による作品16点を設置しました。その後も、県道名古屋江南線沿いの歩道や西春駅前などにモニュメントを設置し、現在54点の作品が市内の街路に並んでいます。

平成20年には、名古屋芸術大学との間で連携協定を結び、公開講座や演奏会の開催などで協力し、学生の持つ情熱や芸術の力がまちづくりに活かされています。また、旧加藤家住宅では音楽療法の実践としてのミニコンサートや、その趣を活かした現代アート作品の展

示会が行われるなど、まちにアートが溶け込み市民の生活や交流に潤いを与えています。

「健康快適都市」を目指して

本市では合併以後、まちの一体性の確立を進めてまいりました。今後はそれをさらに発展させ、まちの魅力をより高め、市民の皆さんが自分のまちを誇りに思い、豊かさを感じられるような「健康快適都市」を目指してまいります。

プロフィール

- ◆ 面積 18・37km²
- ◆ 人口 8万2841人
- ◆ 世帯数 3万3409世帯

〔将来都市像〕「健康快適都市」誰かが安全・安心に暮らせるまち、
〔まちの特徴〕濃尾平野の肥沃な土地に恵まれた、都市と田園風景が共存するコンパクトまち

〔市町村合併〕平成18年3月20日、師勝町、西春町による新設合併



北名古屋市長 長瀬 保



〔特産品〕いちじく、ねぎ
〔観光〕北名古屋市歴史民俗資料館(昭和日常博物館)、旧加藤家住宅、高田寺
〔イベント〕北名古屋市平和夏まつり、北なごやパペットフェスタ、北なごや新春チャレンジマラソン

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

わが

新パワースポット! 世界に誇る歴史遺産を活用して

はじめに

国東市は、大分県の東北部に位置し、国東半島のほぼ東半分を占める総面積317.8km²、人口3万1000人余の市です。
平成18年3月31日に、旧東国東郡内の国見町・国東町・武蔵町・安岐町の4町が合併して、大分県内で



大分の空の玄関、大分空港

は14番目の市として誕生しました。地形は、丸い国東半島の中央にある両子山を中心に、谷が扇のようにつながり、瀬戸内海に注いでいます。西は豊後高田市、南は杵築市に接しており、温暖な気候と自然に恵まれた風光明媚な所です。

宇佐・国東八幡文化遺産を世界遺産に

この地は、かつて「六郷満山文化」が開花した地域で、豊かな山々に神社や寺院、神を鬼とした伝統芸能、仁王像や石仏など、心安らぐ懐かしい日本の原風景が、今もなお残されています。

今日まで脈々と受け継がれてきた文化と心と原風景を、国東半島にある各自治体や関係団体が協力し

「宇佐・国東八幡文化遺産」として世界遺産に登録することを目指して活動しています。
六郷満山とは、「六郷山」とも呼ばれ、来縄、田染、伊美、国東、安岐、武蔵の六郷に点在する寺院の総称です。六郷のうち4つの郷が、現在の国東市にあり、六郷の中核を成していました。



両子寺山門

六郷満山は、奈良時代末から平安初期ごろ、宇佐八幡神の化身といわれる仁聞菩薩が開基したと伝えられています。平安時代、全国4万社余りの八幡様の総本宮である宇佐八幡宮(宇佐市)は神仏習合を取り入れ、当時、宇佐八幡宮の神領域であった国東半島の山岳仏教に強い影響を与えました。

神を仏とし、仏を神とする神と仏が融合した「六郷満山文化」。信仰心

舞い、祈り、伝える 伝統芸能

六郷満山文化の発展の中で、国東独特の伝統芸能が生まれました。小さな祭りから、六郷満山の宗教色を色濃く残す行事までさまざまですが、中でも珍しいのは、火を操り、鬼が舞うという奇祭です。

春を呼び、福を招き、鬼が舞う「修正鬼会」と「ケベス祭り」は、国東二大奇祭として毎年大勢の見物客でにぎわいます。

ほかに、吉弘楽、諸田山神社御田植祭など、里人が大切に守り続けている祭りがしっかりと受け継がれています。

新しい文化の息吹 芸術の里が誕生

ここ数年、この地域に引かれて、全国各地から多くの芸術家が本市に移住し、ここを活動拠点としました。彼らは、私たちに国東



国東の奇祭、「ケベス祭り」

市の素晴らしさを再発見させてくれました。

特に、国見地域では、イラストレーターや表具作家など全国各地から同地域に移住してきた30名程の芸術家による「国見アートの会」が平成21年に発足し、訪問者が芸術家との触れ合いを楽しめる工房ギャラリー巡りを年2回開催しています。

本市では、ギャラリーが集中する伊美商店街周辺を「ギャラリー通り」として整備し、来客用駐車場や案内板を設置したり、空き家を改修したギャラリーの整備などへの助成制度を創設するなど、さらなる芸術家などの誘致や観光客の増を目指しています。

殺伐とした現代社会の心のオアシスとして、国東の自然や風土の持つ、人を受け入れ包みこむ力は、まさに新パワースポットたるゆえんです。

「福祉の里」「観光の里」「教育の里」づくりを目指して

私は、市長就任以来、この2年間、標記の3つの里づくりを大きな柱として、市政運営に取り組ん

でまいりました。

地域に活力を取り戻すには、人と物の交流を盛んにすることが大切であると考えます。また、海の幸、山の幸に恵まれた本市は、食材の宝庫でもあります。

これらの農林水産物を加工し、首都圏や関西、福岡などへの流通ルートを確立していきたいと思ひ、さまざまな取り組みを始めていま

す。農家や小売業従事者の方々の所得を上げる。それが、地域の活性化につながると思っています。「私たちは、国東市のセールスマンだ」と私は常々職員に言っています。これからも自信を持って国東市を売り込んでいきたいと思ひます。読者の皆さまにも、ぜひ、国東市に足をお運びください。心から歓迎申し上げます。

プロフィール

- ◆ 面積 317.84km²
- ◆ 人口 3万1590人
- ◆ 世帯数 1万3427世帯

〔将来都市像〕いにしへの宝を未来につなぐ、仏の里くにさき

〔まちの特徴〕豊かな自然に恵まれ、神と仏が複雑に絡み合う国東半島独特の「六郷満山文化」を今に伝える数多くの文化財を有する歴史と伝統に培われた風光明媚なまち

〔特産品〕海の特産品、七島イ、乾しいたけ、くにさき銀たち(タチウオ)、



国東市長 三河明史



くにさき姫だこ(タコ)
〔市町村合併〕平成18年3月31日、旧東国東郡内の国見町・国東町・武蔵町・安岐町の4町が合併して、大分県内では14番目の市として誕生。
〔観光〕両子寺、文殊仙寺、小城観音展望公園、国見ふるさと展示館
〔イベント〕修正鬼会、ケベス祭り、吉弘楽、諸田山神社御田植祭、仏の里くにさき・とみくじマラソン大会

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。